

E-2 建築空間における機能的役割

永大産業 K.K. 柴本下み子, 奈良女大家政 梁瀬慶子・花岡利昌

目的

建築および設備によってつくり出される空間が、使用者の立場からどのように受けとられてゐるか、さらに建築空間の果たす機能的役割について検討し、とくに使い勝手の面からみた機能性を満たす要素を導き出したことを考えた。

方法

対象とした場所は、昭和47年5月に完成した奈良女子大学家政学部棟の教室、便所、化粧室、ロウカールームなど計5カ所である。被験者には本学々生50名を起用し、測定方法には心理学的手法の一つであるSD法を用いて評定させた。なお、同時に各測定場所の騒音、明るさ、設備の寸法の測定も合わせて行なった。

結果

各場所における評定項目として、明るさ、静かさなどの物理的因子、行動のしやすさ、便利さ、使いやすさ、などの環境設備的因子、気持ちよさ、などの心理的因子などには13項目について調査した結果、使い勝手の面からみた機能性を満たす要素として、

①ゆったりしてゐることは、使い勝手の面にも気分的な面にも良い評価を与える最も重要な要素である。空間がゆったりしてゐる場合は、感じの良さも得られやすく、またありつた気分も得られるものである。②空間の感じよさ、わるさは使い勝手や面及に気分的なもの、充足度の総合的なものとしてとらえられる。③明るさは、ある程度必要分だけ満たされておれば、使い勝手には影響してゐない。ことがわかった。